

地域の温かさに触れ、体験の積み重ねから表現する喜びへ

《やさしい子ども》

自分達の住む地域のよさを感じ、地域が育ててきた文化や生活などの豊かさに気付く。

《考える子ども》

先生や友達の話に興味をもって聞いたり、みんなの前で自分なりの言葉で話したりする。

～ 社会福祉法人 島保育園 ～

☆ 視点にかかわる背景（9～10月） ☆

9月は、敬老会参加に向けて、太鼓の練習に取り組んできた。太鼓の練習に限らずトラブルになる事が多く見られていた子どもたちだったが、様々な行事等を体験していき、少しずつ友達に対しての言葉使いや、思いやる気持ちが育ってきている。

☆ 具体的事例 ☆

子どもの姿・子ども同士のかかわり	保育者の援助・視点	
<p>*花巻地域歳末たすけあいに向けての太鼓の練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歳末が子どもたちにとっては最後の大舞台での発表の場である事を伝え、意欲をもって互いの音色を聞きながら(大太鼓は小太鼓、小太鼓は大太鼓の)表現することを楽しむ。 <p>A:「あと少しで太鼓終わるね。」 B:「オレ、やりたかった小太鼓でうれしい。」 A:「私、前に小太鼓やったから歳末はがまんする。」 C:「俺だって小太鼓やりたかったけど、また大太鼓なんだから。」 A:「がまん、がまん。」 C:「…そんなのわかってる。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎太鼓は子どもたちと準備をし、準備をする姿から友達同士の関係を把握し、さらに友達同士のかかわりを深められるような声掛けをする。また、大きなイベントが最後であるということ伝えることで、子どもたちが練習に主体的に取り組むようにする。 ◎練習では、声・足の開き・手の伸びなど、様々な視点から一人一人の良い点を沢山褒め、自信へと繋げていくようにする。 ◎途中飽きてしまって休んでしまう子に対しては、保育士が見えやすい場所に居るようにしたり、アイコンタクトで合図をしたりする。 	
<p>我慢する、譲り合う気持ちが身についてきており、自分の思いとは違う太鼓になった子も、全体の中での役割として捉え、頑張る練習に取り組む姿が見られる。</p>	 	
<p>C:「声も大きく出したほうがかっこいいよね。」 全員：うなずく。</p> <p>*生活発表会に向けての遊戯選び、及び練習参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数曲を子どもたちと一緒に聞きながら自分がどの曲を踊りたいのか話し合いの場を設ける。「この曲に合わせて踊ってみたい」という曲が集中してしまった。 <p>D:「私もこっちの曲、着物の踊りがいいなあー。」 E:「私も着物の踊りがいい。」 F:「みんなが着物なら駄目だよ。」 G:「まず、歌、聞いたらや。」 全:「うん。」 D:「私、ドレス着て踊る曲のほうにする。」 G:「俺、頭いいな。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎生活発表会のねらいには地域とのつながりを含む。観客が地域の方々であることを意識し、地域の方々に子どもたちの成長した姿を見ていただくことを子どもたちに知らせる。 ◎教師が選曲し、みんなでイメージを膨らませながら曲を聴く時間をゆったりと取る。 ◎曲の感じと共に、どのような衣装を着るのかもさりげなく伝えるようにする。 ◎踊りたい曲が重なることも予測し、重なった時の対応を事前に考えておくようにする。 ◎G 児のいいアイディアに、みんなも納得する。 	
		

☆ 接続期の指導場面における配慮事項 ☆

接続期の時期は、必要以上の声掛けを控えるように保育士が心掛け、子どもたち自らの発想や思い、満足できるような、環境構成と活動を組みながら生活していくように努めている。地域の方に見ていただく場を設定することで、相手意識をもったり、地域の文化や生活の豊かさ、つながりの深さを考えたりする機会となる。保育園は一日と、長い時間、園で過ごしている子がほとんどなので、静と動の活動のバランスにも配慮している。